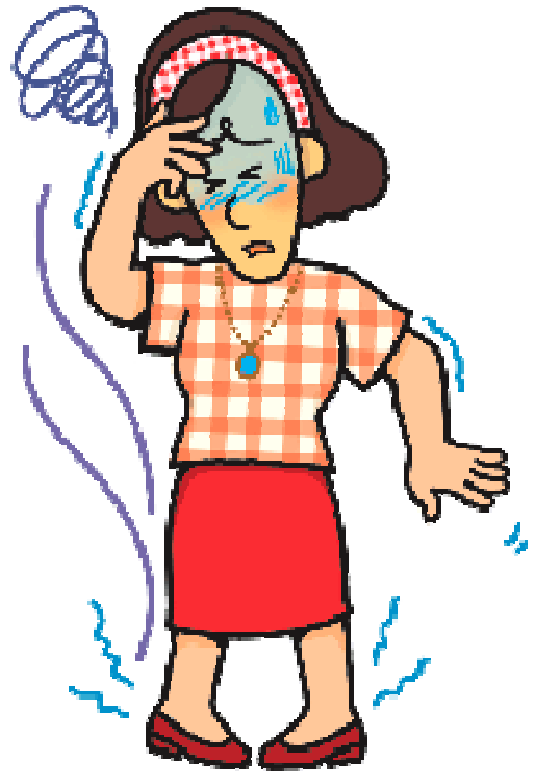


【腎不全で貧血が起こるのはなぜですか？】

みなさんも多くの方が、何らかのかたちで貧血とお付き合いされているのではないのでしょうか。すでにご存知の方も多いたと思いますが、貧血は腎不全に伴う合併症のひとつなのです。腎臓からはエリスロポエチンという、赤血球をつくり成熟させる働きのあるホルモンが分泌されていますが、腎臓の機能が低下するとそのホルモンの分泌が少なくなるので貧血が起こります。ほかにも尿毒症、低栄養なども貧血の原因となりますので、十分な透析を受けることや、良好な栄養状態を保つことも大事なことなのです。また血液透析（HD）を受けておられる患者様は、透析回路の中の残血やシャント手術などにより、血液が失われることでも貧血が起こります。それらの原因をまとめて腎性貧血とよんでいます。



ほかにも鉄、ビタミン、葉酸、亜鉛が不足したり、炎症状態や低栄養によって貧血が悪化することが知られています。また、知らないうちに胃潰瘍などから出血して貧血がすすむこともありますので、タール便ともよばれる黒っぽい便（ちなみに鉄剤の内服でも便は黒くなります）や血便などがないか、普段から便の色にも注意するよう心がけられるとよいと思います。

【腎性貧血は治るんですか？】

腎性貧血のいちばん大きな原因は、さきほどお話ししたようにエリスロポエチンという造血ホルモンが少なくなるからなので、治療はそのホルモンを注射などで補ってやればよいこととなります。1990年に、わが国でも透析患者様に遺伝子組換えヒトエリスロポエチンが投与できるようになり、それまではおもに輸血を行うことで治療されていた患者様にとっても画期的な出来事でした。